



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.7.7

No. 3824

千葉支社

前代未聞の不祥事

7.2ダイヤ改正ミスで組替え!



動力看視時間を つげ忘れダイヤを組替え

七月二日、千葉支社は、ダイヤ改を一方的に強行実施した。ところが、ダイヤ改移行の前々日になって、前代未聞の大ミスが明らかになり、京葉運輸区のダイヤが組み替えられることになったのである。大ミスとは、東京駅で東京から京葉運輸区が乗り継ぐこととなる一四一三列車の発車前に、必要な動力看視時間十五分を付け忘れてしまっていたと言うのだ。しかもこの行路(京葉運輸区B七)は、この箇所ですら食事をとることができない。それも、動乗勤制度に定められた四〇分ギリギリしかないので、このままでは動看十五

分をつけることができない。結局全体を組み替えざるを得ず、五行路のスジが差し替えられることになったのである。もちろん、ダイヤ改移行日には、間に合わせる事ができず、窮余の策として支社の課員を派遣し動力看視を行わせることで新勤務に移行したのである。千葉支社は、「早急に修正し十二日を目途に新たな行路にしたい」と説明を行ってきた。ところが、この修正提案も七月三日と言っていたものが五日になり、五日が六日になってようやく提案が行われた。

修正につぐ修正

ダイヤを組む能力すら喪失

われわれは、今回の事態について、単純な勘違いとかミスとか言うことで済ますわけにはいかない。今回のダイヤ改では、提案の当初から同じようなことが何度となく繰り返された。そもそも始めに提案された労働条件自体が、数十箇所にあつた労働時間等が間違っていたのである。組合から全体の再チェックをするよう申し入れた結果、修正提案が行われた。

しかし、今度は車掌の行路にミスがあり、津田沼車掌区の行路が組み替えられた。そして今度は先述べた京葉運輸区の行路を組み替えである。一体千葉支社

は、どうなつてしまつてゐるの?。実は、前回(昨年十二月ダイヤ改)時も、提案した交番の労働時間の算定等が数十箇所間違つており、組合からの指摘で初めて気が付き修正するということが行われている。現在の千葉

ゆがみきつた経営姿勢 構造的な業務遂行能力解体

これは何も極端なことを言っている訳ではない。この間起きていることを見れば、戦りつせざるを得ない事態であるという他はないのだ。

例えば、「赤信号でも行け」というような指示が平気で何度でも行われる指令員の現状、大菅踏切での死傷事故後の遮断桿折損事故の隠れいをめぐる事態、無資格運転による訓練の実施と開直り、自動給油器の導入を巡つて繰り返された不祥事、等々、数え上げたらキリがない。ここまで行き着いていながら、ほどこだ。まさに構造的な列車運行能力の解体、業務遂行能力の解体である。根本的な原因は、改めて言うまでもないことだ。一方の手で「効率化」だけを追い求め、もう一方の手では動労



第6回団結地引き綱大会
家族揃って集まろう!

七月十日 AM 9:00、「一松海岸」あひる